

仙人通信 149 仙人ヶ岳 (663m)

仙人ヶ岳は、桐生市と足利市に挟まれた尾根上の三等三角点の山であり、足利市の最高峰でニリンソウやカタクリが咲く事でも有名である。JR 両毛線の小俣駅前から松田川ダムを繋ぐ県道**名草坂西線**を進み、猪子トンネルの手前の駐車場に車を置き、岩切登山口から生満不動尊を経て沢を詰め山頂へ向かい、猪子トンネルの上より猪子峠を廻るコースとした。道路脇の仙人ヶ岳を示す道標が岩切登山口である。黄色く実った柚畑を過ぎ、沢沿いの檜林の中を進む。コースの先に不動尊が祀られているも、沢幅 2m 程に沿うように設けた狭い登山道である。10 分程で檜や朴等の落葉樹に替わり、落ち葉が積もったコースだ。渡渉や崖に掛かったロープを頼りに進むと、幅 20cm 高さ 2 m 程の小さな不動滝だ。両側の崖では、落葉した木々の間にシダやアキカラマツの葉が目立つ。スタートから丁度 40 分で沢の左上に小さな社の生満不動尊であり、この不動尊の更に上にマンガン鉱の採掘跡がある。現役時代に硝酸マンガンを経熱分解して二酸化マンガンとして利用した電子部品を研究商品化した経緯もあり、マンガン鉱山跡を自分の目で確かめるのも今日の目的だ。この仙人ヶ岳一帯はペルム期の石灰層と粘板岩(チャート)の足尾層群からなる山だ。2m に満たない穴径の採掘跡が散見され周囲の岩は、黒味を帯びていることも確認出来た。沢の源頭からは、周囲の尾根が確認出来るも、積もった木葉でコースの確認が大変である。不動尊から 35 分程で東側の尾根である**熊の分岐**に辿り着いた。尾根上のコースは、水檜・躑躅等の落葉樹に赤松や檜が混ざった木々で、右手に赤雪山が望め、その先に雪を頂いた日光の帝釈山と隣の女峰山だ。尾根に出てから 20 分程で、赤雪山へと繋がる仙人ヶ岳の東の峰で、5 分程で三角点と山頂標識のある山頂だ。梢越しではあるが真っ白な男体山が、又以前に登った鳴神山・袈裟が岳・皇海山・根本山が北東方面に確認できた。休憩後、熊の分岐から鋸歯状の岩尾根を猪子峠へと進む。最初の峰である知ノ岳 (561 m) からは、眼下に松田川ダムが、その先に筑波山だ。更に分岐から 30 分で、宋の岳 (530 m) だ。コースがその直線上にあると思ひ込み、踏み跡を探し次の峰まで進んだが、コースから逸脱している事に気付き宋ノ岳へと戻り (20 分のロス) 確認すると、何とコースは鋭角にダム方向に曲っていた。10 分程で**犬帰りの** 7 m 程の垂直に近い鎖付きの岩場だ。無事通過し、猪子山 (511 m) の山頂まで、分岐から 2 時間を要した。更に 2 つのピークを過ぎた場所には、仙人ヶ岳・石尊山ハイキングコースの表示のみだ。不安が過るも運よく登ってこられた方と会え、猪子峠の位置を乞うと下がった所と教えられた。猪子山から 40 分で到着である。檜林の中を 20 分程進むと、トンネル出口の近くの県道へ出ることが出来ました。コースから逸脱した時間を入れ 5 時間 20 分 (24000 歩) の反省の残る山旅でした (H28. 12. 2)

マンガン採掘穴



山頂



男体山

